

カシルリオトシブミ (オトシブミ科, アシナガオトシブミ亜科) の新食用植物

上原千春¹⁾・鈴木邦雄²⁾

¹⁾ 〒 520-0025 滋賀県大津市皇子が丘 3 丁目 8-18 ワイズアクト II 605 号

²⁾ 〒 939-0364 富山県射水市南太閤山 14-35

A new food plant of *Euops (Synaptops) splendidus* Voss, 1930 (Attelabidae, Attelabinae)

Chiharu UÉHARA and Kunio SUZUKI

カシルリオトシブミ *Euops (Synaptops) splendidus* Voss, 1930 (オトシブミ科, アシナガオトシブミ亜科) は, 本州・佐渡島・四国・九州に分布するきわめて多食性の普通種で, これまでのところ 15 科 20 属 31 種の植物を寄主あるいは少なくとも野外で食用として利用していることが明らかになっている (上原・鈴木, 1998, 1999; 鈴木・上原, 2012). 筆者らの一人上原は, 2015 年 4 月 16 日, 滋賀県大津市皇子が丘公園内で, 本種がサルトリイバラ *Smilax china* L. (ユリ科 Liliaceae, シオデ亜科 Smilacoideae) の新葉を好食しているのを観察・確認した (図 1, 2). 日本産オトシブミ類の寄主植物としては, 筆者らが知る限り, ウスアカオトシブミ *Apoderus (Leptapoderus) rubidus* Motschulsky, 1860 (オトシブミ亜科 Apoderinae) がシダ植物であるゼンマイ *Osmunda japonica* Thunb. (ゼンマイ科 Osmundaceae) の葉を巻いて揺籃形成を行っていたとの沢田 (1996) の報告が 1 例ある以外, 双子葉植物のみが知られていた. カシルリオトシブミは, ひじょうに多食性の種ではあるが, 単子葉植物のユリ科を, 少なくとも食用として利用していることは注目に値する.

本種が, サルトリイバラで揺籃形成を行うかどうか, つまり寄主植物として利用しているか否かについてはきわめて興味深い, これまでのところ未確認なので, 今後は注意深く観察を続けたい. サルトリイバラの新葉は, 柔らかくて薄く, 揺籃形成自体は物理的には不都合はないと推測される.

引用文献

- 沢田佳久, 1996. ゼンマイの葉にウスアカオトシブミの揺籃. 昆虫と自然, 31(13): 9.
- 鈴木邦雄・上原千春, 2012. オトシブミ類の揺籃形成戦略の多様性—揺籃構造と寄主植物選好性の可塑性を中心に—. 生物科学, 64: 21–34.
- 上原千春・鈴木邦雄, 1998. 本州中部地方に生息する「オトシブミ類 (鞘翅目, オトシブミ科) の寄主植物. 富山市科学文化センター研究報告, (21): 77–97. (In Jpn with Engl. summary)
- 上原千春・鈴木邦雄, 1999. 本州中部地方に生息する「オトシブミ類 (鞘翅目, オトシブミ科) の寄主植物 (II). 富山市科学文化センター研究報告, (22): 97–113. (In Jpn with Engl. summary)

(2015 年 5 月 26 日受領, 2015 年 6 月 14 日受理)



図1. カシルリオトシブミとサルトリイバラ.



図2. サルトリイバラ上の食痕.